

## 2022年度 授業評価(授業アンケート)結果報告

### 1. 授業評価実施の経緯

- 2003～2006 北辰図書によるアンケートを導入、4年間継続
- 2007～2008 全教員による手作りアンケート方式実施
- 2009～2013 再び北辰図書によるアンケートに戻して、以後5年間継続
- 2014～2019 代々木ゼミナール教育総合研究所に変更して6年間実施
- 2020 6月中旬までオンライン授業を行ったため、実施を断念
- 2021～ 代々木ゼミナール教育総合研究所によるアンケート再開2年目

### 2. 授業評価の特徴

- 質問項目の内容・意図が明確であり、生徒が評価しやすく、また教員の立場からも改善につなげやすい。
- 解析後に講師が派遣されて、全体の場で評価の読取り方や今後の改善方法、授業力向上策などが指摘され、事後の授業づくりの参考になる。それ以外にも、講師から年に数回メールにて授業改善・生徒指導への提言を紹介してくれる。

### 3. 授業評価の質問一覧

- 2019年度にICT教育など教育方法の改善のなかで質問項目を変更したが、以後は連続性を重視して、今年度の質問項目は昨年度以前と同じ質問項目・内容で実施している。

〈2022年度の質問項目＝教壇系〉

番号	項目	質問内容
1	板書や資料	板書やプリント ICT などの教具は、授業の理解に役立っている。
2	指示と説明	先生の説明はよくわかり、指示にとまどうことはない。
3	理解確認	先生は、生徒の理解を確かめながら授業を進めてくれる。
4	対話の効果	授業中の話し合いや周りとの協働を通して、学びが深められる。
5	目標理解	先生は、達成すべき目標やポイントをはっきり示してくれる。
6	活用機会	授業で理解したことを使って自分で考える機会が整えられている。
7	学習効果	この授業を受けて、学力や技能の向上を実感できた。
8	進み方	授業の進み方、(授業で扱う分量) はあなたにとってどうですか。
9	難易度	教材や課題の難易度はあなたにとってどうですか。
10	学習方法	あなた自身、この科目の学び方や取り組み方が身についてきた。

〈2022年度の質問項目＝実技系〉

番号	項目	質問内容
1	ポイント説明	先生の説明を通じて、練習や作業のポイントがよくわかる。
2	行動指示	授業中の約束事や先生の指示は明確で、戸惑わずに行動できる。
3	生徒理解	先生は生徒の状況をよく把握しながら授業を進めてくれる。
4	表現の場	展示や発表・試合など、自分の取組の成果を表現できる機会がある。

5	目標理解	振り返りや先生からの助言を通じ、次に向けた課題が意識できる。
6	振り返り	授業を受けて、知識や技能が身につき、自分の進歩を実感できる
7	学習効果	この授業を受けて、学力や技能の向上を実感できる。
8	進み方	授業の進み方、(授業で扱う分量) はあなたにとってどうですか。
9	難易度	教材や課題の難易度はあなたにとってどうですか。
10	興味関心	授業を通してこの科目への興味関心が高まった。

- 質問1～7の項目に関しては、A「非常によくあてはまる」、B「よく当てはまる」、C「どちらかといえば当てはまる」、D「あまり当てはまらない」、E「当てはまらない」の5段階で評価する。
- 上記の7項目はA=10、B=8…、E=2という得点がつけられ、最終的に100点満点に換算した得点率で示される。高いほうが、高評価となる。
- 質問8は、A「速すぎる」、B「やや速い」、C「ちょうどよい」、D「やや遅い」、E「遅すぎる」の5段階で評価する。
- 質問9は、A「難しすぎる」、B「やや難しい」、C「ちょうどよい」、D「やや易しい」、E「易しすぎる」の5段階で評価する。
- 質問10は、A「強く思う」、B「そう思う」、C「少し思う」、D「あまり思わない」、E「まったく思わない」の4段階で評価、得意方向か苦手方向かを明確に示す。
- 質問8～10は、A=+10、B=+5、C=0、D=-5、E=-10の平均数値で示される。質問8・9は0が理想的ではなく、若干「速い」・「難しい」によった+1～2程度の評価が好ましいと判断される。
- 生徒は上記アンケート項目以外にも、教員に対する記名式でコメントを記入することができる。コメントは生徒から回収後に、担任教員がアンケートとは切り離して、直接担当教員に手渡している。
- アンケートは、例年同様に6月中旬から7月上旬のWDやLHRで実施した。

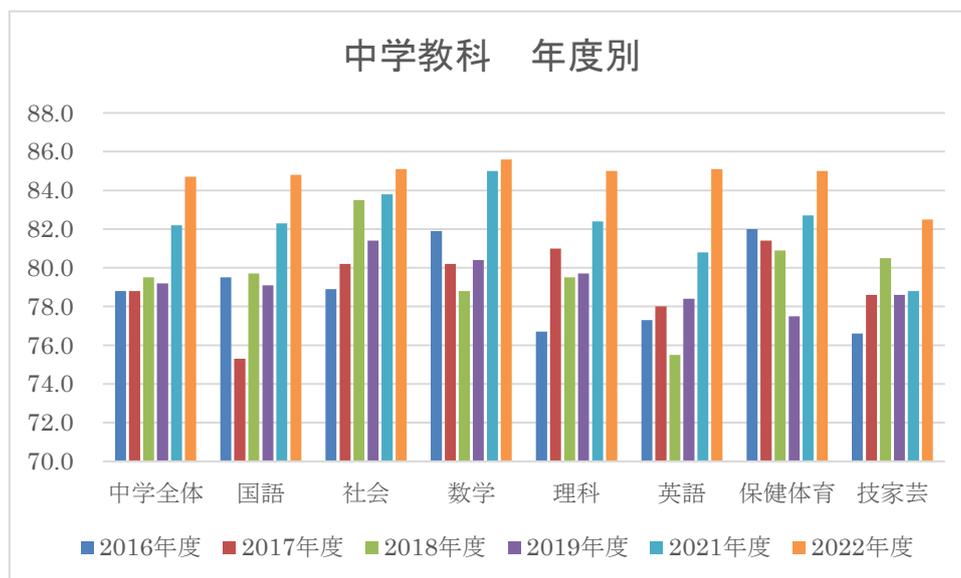
#### 4、アンケート実施後の対応

- 今年度は、8月25日(木)に授業評価検討会を実施した。
- 講師より全体概評、評価点、課題、改善方法などが紹介され、その後質疑応答を実施して内容を深めた。
- この後、教科ごと、次いで担当学年ごとと会合をもち、成果・課題などの共有がはかられた。
- 教科の会合においては、各自の結果を報告しあい、そのなかで教科共通の課題や長所などを確認し、今後の授業の改善内容・方法などを討議した。この後、午後にも教科会を設定し、今後の改善方法などを検討するとともに、今年度から高校にも拡大されている観点別評価など教科が抱える課題に関して話し合いを行い、夏休み以後の授業や評価方法の工場をめざす時間とした。
- 担当学年ごとの会合では、学年や各クラスの評価点・課題を基に、今後の授業改善などを検討した。

- これらの討議を参考にして、自分の課題克服を中心に 10 月上旬までに改善シートを作成した。その後、課題解決のために、授業見学やその後の教科会での話し合いなども含めて、各自・各教科で改善が重ねられた。

## 5、教科別の総合評価

〈中学校〉

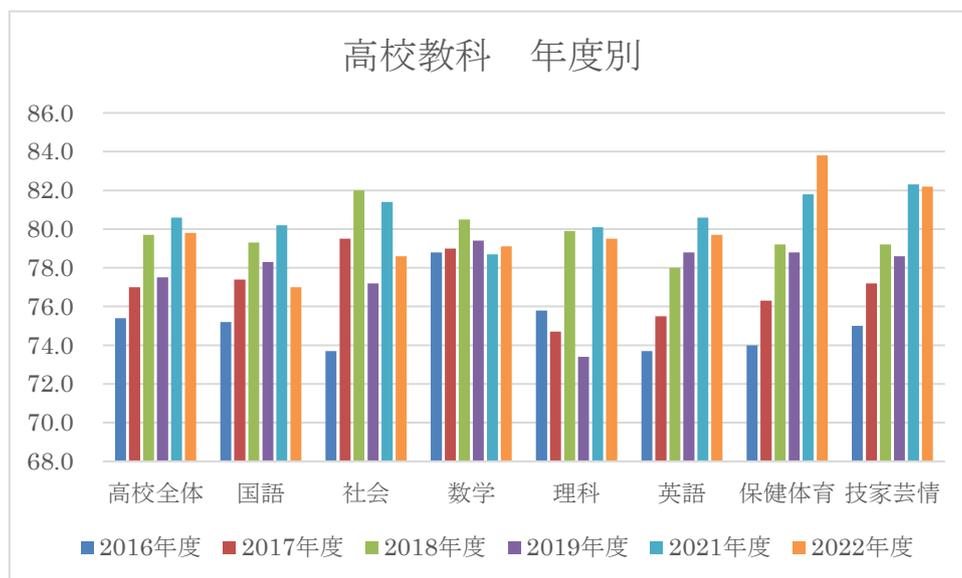


	中学全体	国語	社会	数学	理科	英語	保健体育	技家芸
2016 年度	78.8	79.5	78.9	81.9	76.7	77.3	82.0	76.6
2017 年度	78.8	75.3	80.2	80.2	81.0	78.0	81.4	78.6
2018 年度	79.5	79.7	83.5	78.8	79.5	75.5	80.9	80.5
2019 年度	79.2	79.1	81.4	80.4	79.7	78.4	77.5	78.6
2021 年度	82.2	82.3	83.8	85.0	82.4	80.8	82.7	78.8
2022 年度	84.7	84.8	85.1	85.6	85.0	85.1	85.0	82.5

- 前述のように、2019 年度から質問項目の一部が変更されたため、2018 年度以前は参考数値となつてゐるが、今年度の評価は過去 5 回と比べて、高い評価を受けた教科が多い。その理由として、以下の 5 点があげられる。
  - ① 従来の授業評価を受けて、各教科・教員において改善がはかられている。課題を克服して恒常的に授業改善を行う土壌が次第に育成され、それが結実に向かっている。
  - ② 2020 年度以降のオンライン授業を経験したことにより、教員がオンライン授業・対面授業それぞれの特性を理解し、その特性に合致した授業を研究して実践できている。とくに近年の ICT 教育の導入により、スクールタクトなどのアプリを効果的に利用して、生徒一人一人が積極的に考え、また他の生徒の意見を聞くなど、より能動的な授業が展開されやすくなり、生徒も自己の理解を実感しやすくなった。

- ③ 経年の各教科の研究により、②に示したように講義形式の授業を脱却し、各自の取組、グループ活動などを主とした授業への転換をはかり、それが整備されてきている。これにより生徒が、主体的に学びに参加している意識を高めて、授業内容の理解にもつながっている。

〈高等学校〉



	高校全体	国語	社会	数学	理科	英語	保健体育	技家芸情
2016年度	75.4	75.2	73.7	78.8	75.8	73.7	74.0	75.0
2017年度	77.0	77.4	79.5	79.0	74.7	75.5	76.3	77.2
2018年度	79.7	79.3	82.0	80.5	79.9	78.0	79.2	79.2
2019年度	77.5	78.3	77.2	79.4	73.4	78.8	78.8	78.6
2021年度	80.6	80.2	81.4	78.7	80.1	80.6	81.8	82.3
2022年度	79.8	77.0	78.6	79.1	79.5	79.7	83.8	82.2

- 今年度は前年度より評価を下げた教科が多く、教壇系の教科はすべて 80 点を切っている。これに対して実技系の教科が 80 点台に位置している。
- 高校 1 年生が新学習指導要領を導入する最初の学年となり、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「これらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力など」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点を学力の 3 要素として重視し、これらの 3 観点を評価項目に加えることになった。本校ではこれに先立って、3 要素を学習のなかに取り込んできたものの、まだ試行錯誤の状態にあることは否めない。
- 中学校では全員が Chromebook を所有して活用しているが、高校生の場合には 2 年生までしかその環境は整っておらず、高校 2 年までも BYOD によりスマホなどでも対応している部分もあり、ICT 教育の導入に関しては、今後も改善が必要な状態である。

- 一方ではワイドを有効に使った授業がすでに定着し、毎年のブラッシュアップのなかでより充実がはかられている。
- 前年度の高評価の一因としては、オンライン授業を伴う授業から対面授業中心となり、あらためてその授業効果が実感できたことによる数値も含まれている。上記の課題があるとはいえ、2019年度の数値と大きな変化がみられないことから、授業内容が低下したというよりも、対面授業に慣れて従来同様に生徒も正当な評価ができる状態になったとも考えられる。

## 6、質問項目ごとの評価

例年通り最初の7項目に関して、中学校・高等学校別に、学年別で示して考察をする。

〈中学校=2022年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
中学全体	89.8	85.5	83.7	82.7	83.5	83.6	82.5
中学1年	90.4	85.0	83.1	81.3	82.7	82.4	82.1
中学2年	90.2	86.3	84.8	84.0	84.7	85.0	84.4
中学3年	88.7	85.3	83.2	82.9	83.0	83.5	80.8

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
中学全体	83.6	83.2	81.3	81.7	84.5	80.2	80.9
中学1年	85.8	84.2	82.5	81.5	85.6	80.8	82.7
中学2年	80.1	79.7	77.6	80.1	81.5	78.0	78.4
中学3年	84.7	86.2	83.9	83.9	86.3	82.1	81.2

〈中学校=2021年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
中学全体	89.4	85.0	82.6	78.8	82.4	81.7	81.7
中学1年	92.4	86.3	84.8	79.2	84.2	82.9	84.0
中学2年	87.2	83.8	80.8	77.3	80.8	80.6	80.3
中学3年	87.9	84.5	81.6	79.7	81.8	81.2	80.4

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
中学全体	83.0	81.5	79.3	78.4	82.5	77.5	78.7
中学1年	86.2	83.7	81.2	77.6	84.9	79.0	81.4
中学2年	77.7	77.3	74.9	77.2	78.2	74.4	74.5
中学3年	83.7	82.5	81.1	80.7	83.5	78.4	79.1

〈参考：中学校＝2019年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
中学全体	84.8	81.1	79.5	77.2	79.0	78.2	77.2
中学1年	90.1	85.6	84.2	82.8	83.5	83.1	80.9
中学2年	82.8	78.9	76.8	76.1	76.3	75.0	74.7
中学3年	82.0	79.2	77.9	73.5	77.4	76.6	76.0

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
中学全体	79.5	79.9	77.8	76.9	79.9	75.0	75.7
中学1年	84.4	84.4	81.0	78.7	83.4	77.6	78.6
中学2年	76.9	77.1	75.5	76.7	78.3	72.9	73.6
中学3年	74.0	75.5	74.9	74.3	75.8	72.8	73.0

- 例年では中学1年生のポイントが高く、学年と経過するごとに低くなる傾向がみられるが、本年度の場合には、中学2年のとくに教壇系が昨年度と変わらぬ評価を受けており、上業内容のブラッシュアップをはかるとともに、授業の意図を生徒に定着させるなど、授業力の向上がみられる。
- また実技系も評価が高い。中学2年が教壇系に反して低くなっているものの、学習効果が高評価であり、授業内容に満足している生徒が例年以上に多く、授業改善がすすめられていることが確認できる。

〈高等学校＝2022年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
高校全体	83.2	80.7	78.4	75.2	78.2	80.2	75.5
高校1年	85.2	81.6	80.0	78.4	79.8	82.1	77.6
高校2年	81.2	78.8	76.7	83.6	76.1	77.4	72.8
高校3年	82.7	81.6	78.0	72.3	78.3	80.98	76.4

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
高校全体	87.1	85.7	82.6	79.5	82.7	79.6	79.2
高校1年	88.1	86.6	83.6	81.2	84.6	81.2	80.4
高校2年	85.5	84.3	81.1	76.8	79.8	77.3	77.4

〈高等学校＝2021年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
高校全体	84.3	81.9	79.1	75.3	79.5	80.5	76.8
高校1年	81.9	78.3	75.3	71.8	76.2	77.5	73.9
高校2年	86.2	83.9	81.3	77.9	81.7	82.5	78.9
高校3年	85.2	84.2	81.6	76.9	81.4	82.3	78.2

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
高校全体	85.3	83.8	80.3	76.9	80.3	77.0	77.8
高校1年	84.9	83.2	80.6	77.7	80.2	77.0	77.9
高校2年	85.9	84.6	79.9	75.9	80.3	77.0	77.8

〈参考：高等学校＝2019年度〉

教壇系	板書・資料	指示・説明	理解確認	対話の効果	目標理解	活用機会	学習効果
高校全体	79.9	78.2	75.7	72.6	75.9	76.3	73.2
高校1年	80.8	78.3	76.3	73.3	75.3	75.2	73.9
高校2年	78.5	76.5	73.9	69.3	74.3	74.3	71.4
高校3年	80.3	80.3	77.3	75.6	78.6	80.2	74.5

実技系	説明	行動指示	生徒理解	表現の場	目標理解	振り返り	学習効果
高校全体	81.5	80.7	78.7	74.7	77.9	75.9	75.5
高校1年	80.9	80.2	79.5	76.7	78.7	77.1	76.2
高校2年	82.3	81.5	77.5	71.7	76.9	74.1	74.5

- 高校は例年中学校に比べて評価が厳しい傾向にあるが、前述したように各学年前年度より評価を下けている項目が多い。
- ただし2019年度との比較すると、数値はかならずしも悪いわけではなく、前述したように授業改善のなかで、あらたな作業や展開に生徒が戸惑っている部分があり、そのため評価が低いということも考えられるため、ブラッシュアップをはかりながらも、評価の推移をみてうえで、評価をしていきたい。
- 学習効果が高2を除いて75を超えていることから、授業による学力の向上を実感している生徒が多く、授業方法が間違っているわけではないことは読み取れる。より多くの生徒は授業や家庭学習を通して学力の向上を実感できるように、さらに授業力の向上をはかりたい。

以上